[研究資料]

大相撲における女人禁制の研究（VII）

――平成19年（2007）九月東京場所の観客意識調査――

生沼芳弘*1・了海　諭*2・山本恵弥里*3・鈴木貴士*4

A Survey of Nix Women in the Sumo Ring (VI)

―― The Case of the 2007 September Tournament Spectators' Opinion ――

by

Yoshihiro OINUMA, Satoru RYOKAI, Emiri YAMAMOTO and Takashi SUZUKI

Abstract

The purpose of this paper is to look at the opinions of the "Nix Women" and the traditional Sumo patterns from the viewpoint of the spectators. For the survey, we handed out questionnaires to the spectators who saw the Sumo Tournament on September 14th, 2007. The world of sumo has been rocked by a series of scandals involving fixed sumo bouts and yokozuna Asashoryu. The survey also is to investigate the feelings about these scandals. More than half of the spectators understood that some sumo bouts were fixed.

I　はじめに

大相撲の土俵における女人禁制に関する調査は，平成15年（2003）8月に大阪府の太田房江知事より依頼があり，筆者が協会の了解を取り付け同年9月17日に東京場所11日目の両国国技館で男女観客数の調査を行ったのが最初であった。その後，調査は平成15年11月福岡場所7日目，平成16年（2004）正月東京場所7日目，3月大阪場所7日目，5月東京場所7日目，7月名古屋場所11日目，11月福岡場所10日目，平成17年（2005）正月東京場所12日目，9月東京場所9日目，平成18年（2006）9月東京場所4日目と計10回行われた。以上の調査結果は，大相撲における女人禁制の研究Ⅰ[1]・Ⅱ[2]・Ⅲ[3]・Ⅳ[4]・Ⅴ[5]・Ⅵ[6]に纏められている。

本研究は，大相撲の土俵における女人禁制について広く国民の意見を聞くための11回目の調査であり，平成19年（2007）9月14日金曜日，大相撲東京場所6日目の観客に行ったアンケート調査の結果報告である。今年の相撲界は八百長問題・朝青龍問題とマイナスイメージの問題が多かった。

＊1　東海大学体育学部体育学科　＊2　東海大学体育学部非常勤講師　＊3　東海大学体育学部非常勤講師
＊4　金沢工業大学助教

本調査では，これらの問題についてのアンケート調査を実施したので，その報告も女人禁制の問題と併せて行うこととする。

II　調査方法

平成19年（2007）９月９日から９月23日まで両国国技館で行われた大相撲九月東京場所の６日目（９月14日），大相撲観戦に関する意識についてアンケート調査を行った。調査内容は大相撲観戦や回答者自身に関する質問15項目である。アンケートは国技館入り口付近で返信用封筒を添えて300部配布した。配布方法は，入り口に調査員を配置して入場者数をカウントし，開場の８:30から正午までは男女それぞれ10人に１部ずつ配布し，正午以降は20人に１部ずつ配布した。回収は入り口付近と臨時出口付近に調査員を配置し直接回収した。またアンケート用紙に添付した返信用封筒により，郵送による回収も行った。回答者には粗品として番付を差し上げた。当日の回収数は213部，後日郵送されたものが８部で，合計221部回収した。従って回収率は73.7%であった。

また，調査当日の総観客数は5,886名で，男性3,228名（56.54%）女性2,558名（43.46%）であった。国技館の定員が11,060名であるため，入場者割合は53.2%であった。30分ごとの入場者の推移は図１に示すとおりである。

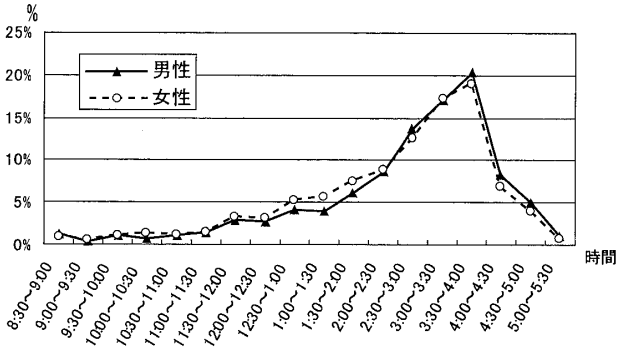

図１　30分ごとの入場者割合

III　調査結果

１．回答者の概要

回答者221名の性別は男性109名，女性105名，無回答６名であった。回答者全体の平均年齢は51.59歳（S.D.：15.41），男性53.59歳（S.D.：14.56），女性49.63歳（S.D.：15.89）であった。年代別では，男性で60代が最も多く（25.7%），50代，30代，40代の割合が高い。女性では50代が最も多く（22.9%），60代，20代，40代の割合が高かった（図２）。

学歴は男性で大学卒が最も多く（56.9%），女性では高校卒が最も多かった（40.2%）（図３）。職業別では男性で会社員・公務員が最も多く（51.9%），次に無職の割合が高い（26.9%）。女性では専業主婦が最も多く（44.2%），次に会社

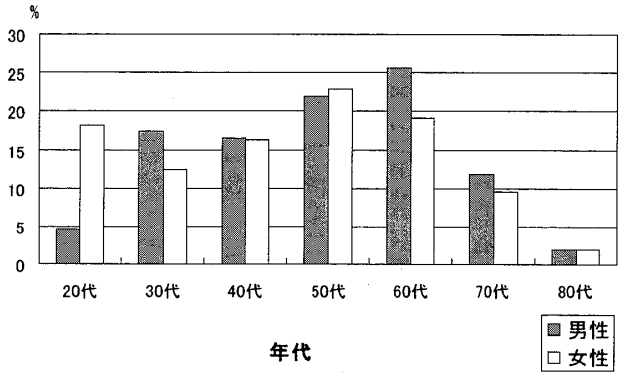

図２　回答者の年代

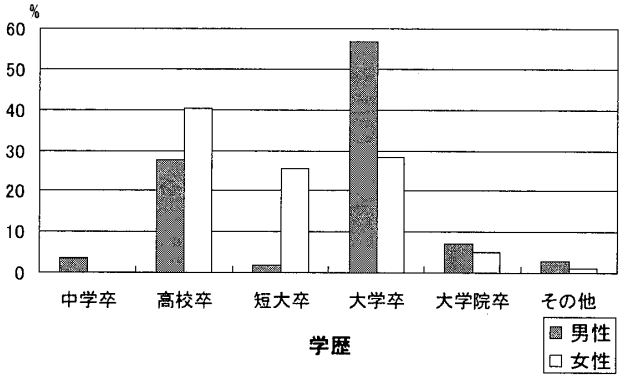

図３　回答者の学歴

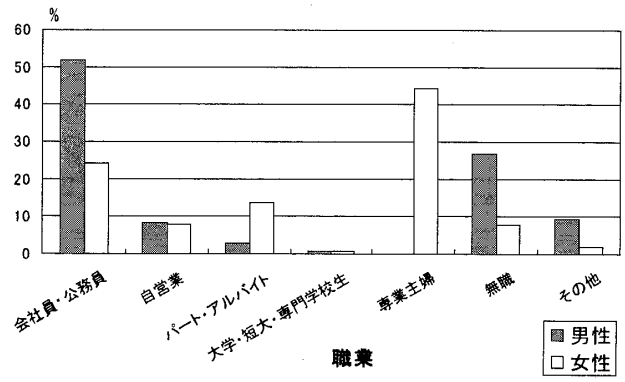

図４　回答者の職業

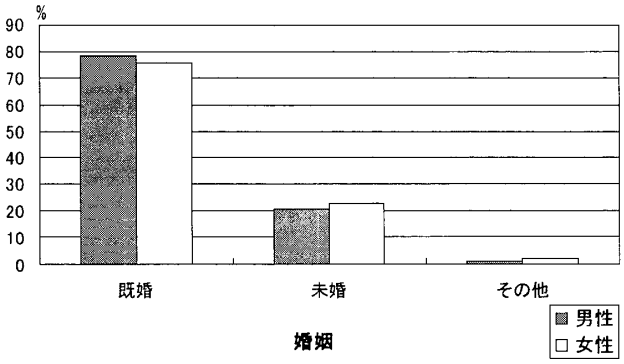

図5　回答者の婚姻

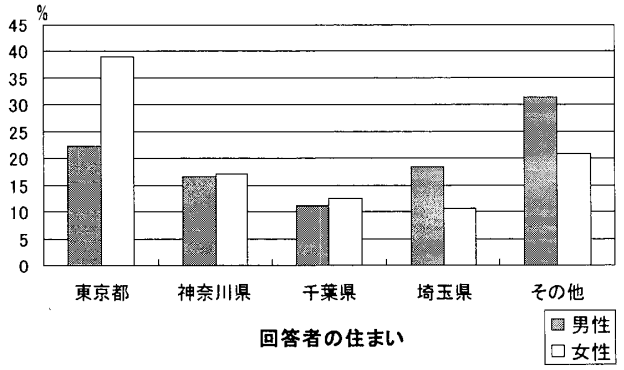

図6　回答者の住まい

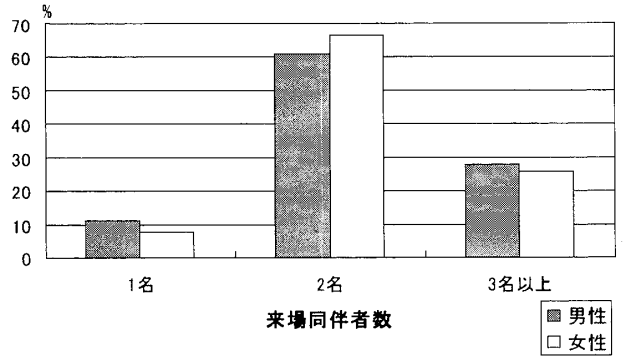

図7　来場同伴者

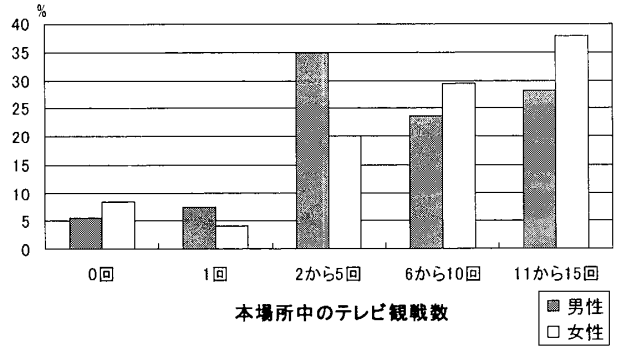

図8　本場所中のテレビ観戦数

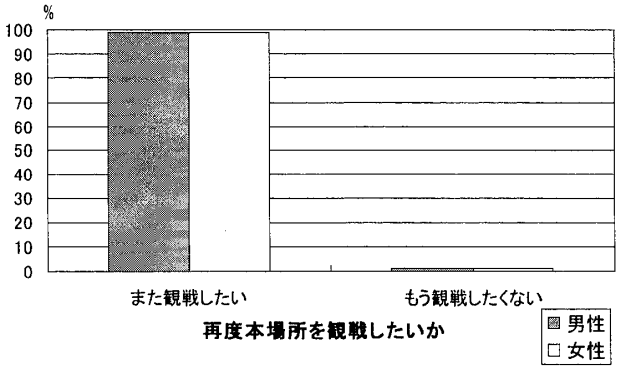

図9　再度本場所を観戦したいか

員・公務員（24.0%）となっている（図4）。調査日が平日ということもあり，比較的時間がある無職や専業主婦の割合が高い結果となった。婚姻関係は男性78.5%，女性75.5%と男女とも既婚者が多かった（図5）。回答者の住まいでは，男性で東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県以外からの来場が最も多く（31.5%），女性では東京都が最も多かった（39.0%）（図6）。観戦人数は男女とも2名での観戦が多かった（男性61.1%，女性66.7%）（図7）。本場所中のテレビ観戦数は男性で2～5回が最も多く（34.9%），女性では11回以上が最も多かった（37.9%）（図8）。男女とも，2回以上のテレビ観戦が85%以上を占めており，大相撲への関心の高さを窺うことができる。同様に，再度本場所を観戦したいかという質問には，男女とも99%以上が再観戦を望んでおり（図9），回答者の関心の高さが窺える結果となった。

2．土俵の女人禁制

2004年から2007年に行った調査（4回）より得られた女人禁制に関するデータを，8項目に分け，調査毎に集計を行った。さらに，観戦者の意識の傾向を把握するために，四段階評価を二段階評価にまとめて集計をした。1）から7）の項目は，2005年の調査には質問項目を設けなかった。また，8）の項目は2004年の調査に質問項目を設けなかったので，各項目とも3回の調査についての比較になっている。

1）女人禁制を守るべきか

「女人禁制を守るべきか」ということについて，2004年は65.5%，2006年は72.6%，2007年は64.1

%が，女人禁制を守るべきだと答えている。2004年から2006年では，賛成する意見が増えたものの，2007年には再び減少した。しかし，各年も反対意見が賛成を上回るものではなく，土俵の女人禁制を守るべきという意見が多いことが確認された(図10)。

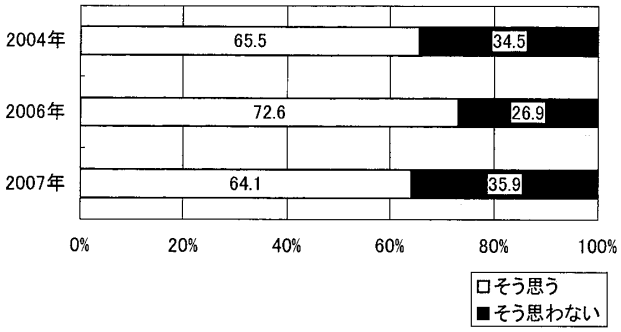

図10　女人禁制は守るべきである

2）セレモニーで女性が土俵に上がること

セレモニーで女性が土俵に上がっても良いのではないかということについて，2004年は59.1%，2006年は69.3%，2007年は63.3%が，セレモニーで女性が土俵に上がることに反対している。各年では増減の推移があるものの，反対意見が多いことが理解された（図11)。

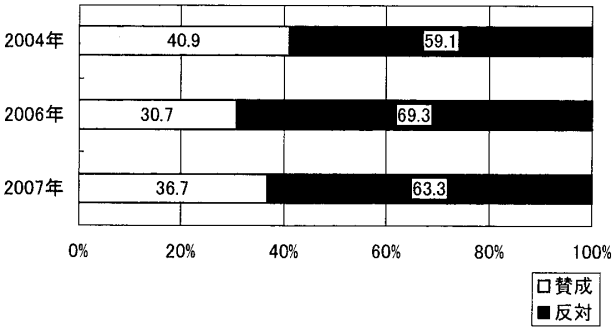

図11　セレモニーで女性が土俵に上がること

3）表彰時にだけ女性が土俵に上がること

表彰時だけなら土俵に上がっても良いのではないかということについて，2004年は52.7%，2006年は50.0%，2007年は52.9%が，反対であると答えている。2006年は意見が賛成反対ともに50%であったが，2007年は再び反対の意見が増加した(図12)。

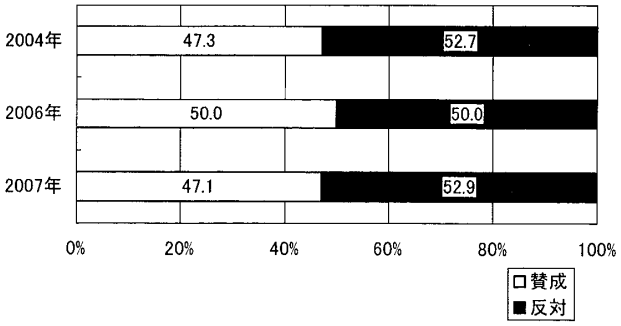

図12　表彰時にだけ女性が土俵に上がること

4）女性力士が土俵に上がること

女性力士が土俵に上がることについて，2004年74.2%，2006年88.7%，2007年84.7%が土俵に上がることに反対している。どの年も反対意見が多いことが確認された（図13)。

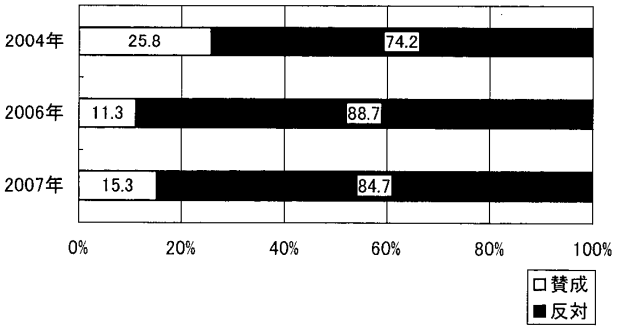

図13　女性力士が土俵に上がること

5）女性が土俵に上がれば女性ファンが増えるのではないか

女性を土俵に上げれば女性ファンが増えるのではないかということについて，2004年73.1%，2006年85.1%，2007年76.6%がそう思わないと答えている。2004年から2006年にかけて増えるとは

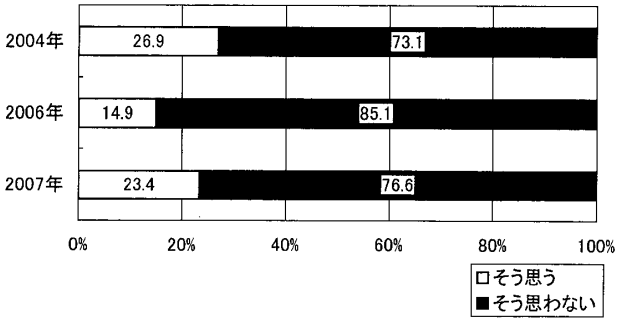

図14　女性を土俵に上げれば女性ファンが増える

思わないという意見が増えたが，2007年は再び減少した（図14）。

6）女人禁制は相撲関係者に任せるべきか

女人禁制については相撲関係者の判断に任せるべきかという項目について，2004年は55.9%，2006年は54.7%が関係者に任せるべきだと答えた。しかし，2007年は56.2%が関係者に任せるべきでないと回答している（図15）。

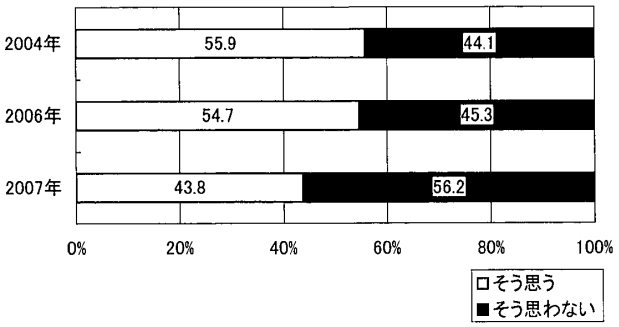

図15　女人禁制に関しては相撲関係者の判断に任せるべきである

7）女人禁制のような伝統を重んじる社会があってもよいのでは

女人禁制のような伝統を重んじるような社会があっても良いのではという項目について，2004年は77.3%，2006年は87.3%，2007年は75.1%が，このような社会があっても良いと答えた。2004年から2006年では約10%の増加が見られたが，2006年から2007年は約12%の減少が見られる。各年では増減の推移があるものの，伝統を重んじる社会があっても良いという傾向が多いことが確認された（図16）。

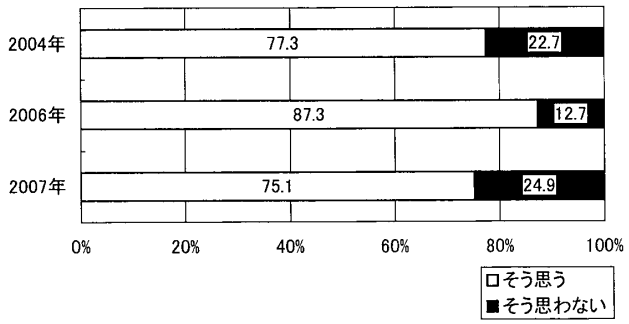

図16　このような伝統を重んじる社会があっても良い

8）女性が天皇になること

女性が天皇になることという項目については，2005年は85.1%，2006年は70.7%，2007年は76.4%が賛成している。2005年から2006年は約15%の減少が見られるが，2007年には約6%の増加が見られた。しかし，各年も反対意見が賛成を上回るものではなく，女性が天皇になることには賛成という意見が多いことが確認された（図17）。

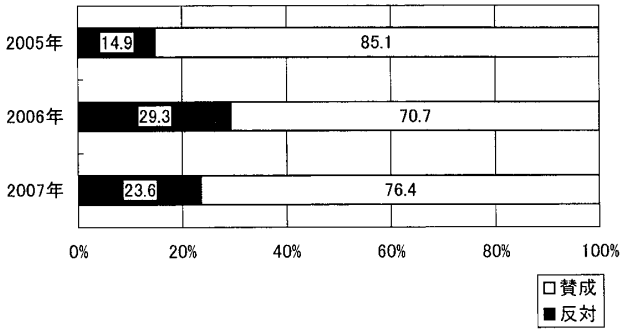

図17　女性が天皇になること

3．八百長問題

大相撲の八百長問題に関する2項目について男女別に分けて集計を行った。

1）大相撲は真剣勝負でなければならない

「大相撲は真剣勝負でなければならない」については，全回答者数210名の206名が真剣勝負でなければならないとしており，男性の4名だけが「そう思わない」と回答している。男性も女性も7割が「全くそう思う」と回答している（図18）。

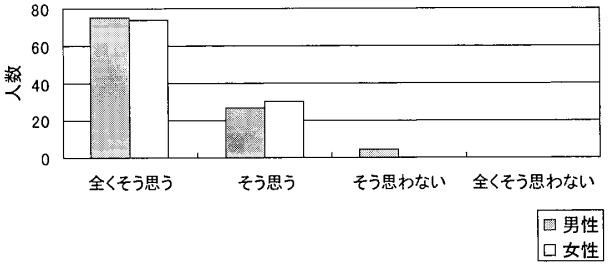

図18　大相撲は真剣勝負でなければならない

2）大相撲には八百長がある

「大相撲には八百長がある」については，205名の回答者の117名（57%）が「ある」と思っている。男女で比較すると，女性（60%）の方が男性

(54%) より八百長の介在を疑っている。八百長の介在を確信している割合（全くそう思う）は，男性（13.5%）の方が女性（10.9%）より多かった（図19)。

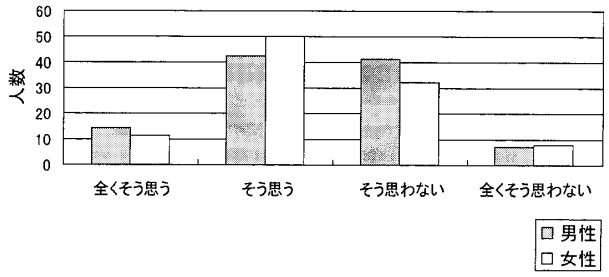

図19　大相撲には八百長がある

4．外国人力士と横綱問題

外国人力士と横綱の品位に関する3項目について，男女別に分けて集計を行った。

1）外国人力士が増えること

「外国人力士が増えること」については，全回答者209名の88名（42%）が賛成で121名（58%）が反対であった。男女を比較すると女性の方が外人力士に反対している。昨年（2006）は57.5%が賛成していたので，朝青龍問題が影響していると思われる（図20)。

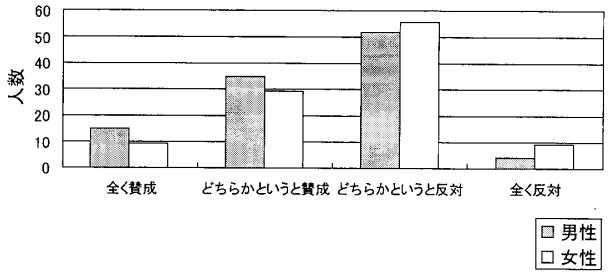

図20　外国人力士が増えること

2）大相撲は日本人だけで行うべき

「大相撲は日本人だけで行うべき」については，3割の回答者が日本人だけで行うべきとしており，7割の回答者が日本人だけに反対している。大相撲は日本人だけでは面白くないが，外人力士を増やしてはいけない，ということであろう（図21)。

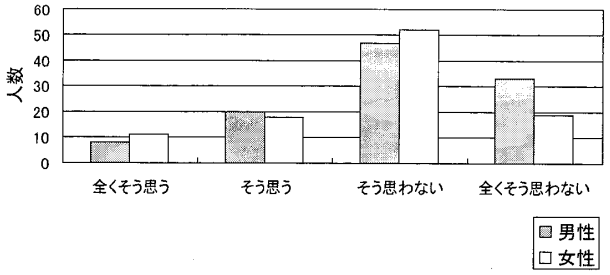

図21　大相撲は日本人だけで行うべき

3）横綱にとって最も必要なものは心・技・体のどれだと思いますか

男性の7割強，女性の6割強が心を重要視している。また，男性の2割，女性の3割強が技を重視している。この設問は今回が初出であるので昨年と比較できないが，今後も継続して行っていく予定である（図22)。

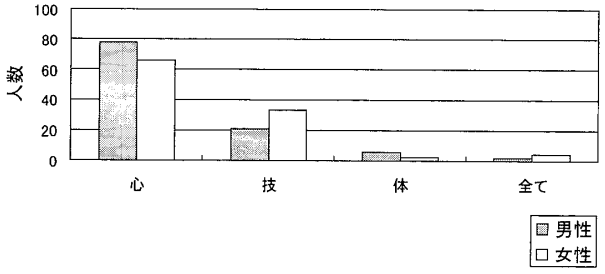

図22　横綱に最も必要なもの

Ⅳ　まとめ

各調査の結果を比較検討した結果，大相撲観戦者の女人禁制の意識には大きな変化はみられなかった。しかし，女人禁制は相撲関係者の判断に任せるべきという項目だけ過去2回と2007年では意見の相違が見られ，任せられないという回答者が過半数を占めるようになった。これは八百長問題と朝青龍問題での相撲関係者の対応が，マスメディアに批判されていたことが関係していると考えられる。

欧米型の近代スポーツは真剣勝負（ガチンコ）が原則だが，大相撲は欧米型の近代スポーツではない。明治時代に日本に近代スポーツが入ってくる前の江戸時代から大相撲は存在しており，現在の天皇賜杯ができる大正14年（1925）まで大相撲に個人優勝の制度はなかった。大相撲における八

百長問題は現在，政財界の汚職事件や犯罪のように扱われている。いつから八百長は犯罪のような扱いを受けるようになったのだろか。

引用・参考文献

1）生沼芳弘・了海諭・山本恵弥里他（2004）大相撲における女人禁制の研究（Ⅰ）―大相撲観戦者の男女比―，東海大学紀要体育学部第34号，pp. 25～33

2）了海諭・生沼芳弘・山本恵弥里（2005）大相撲における女人禁制の研究（II）―大相撲観戦者の基礎データ―，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 59～63

3）山本恵弥里・生沼芳弘・了海諭（2005）大相撲における女人禁制の研究（III）―大相撲観戦者の事例から―，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 65～72

4）生沼芳弘・了海諭・山本恵弥里（2005）大相撲における女人禁制の研究（IV）―外人観客の意識調査―，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 73～81

5）山本恵弥里・生沼芳弘・了海諭（2006）大相撲における女人禁制の研究（V）―大相撲観戦者の年代別の傾向から―，東海大学紀要体育学部第36号，pp. 93～101

6）生沼芳弘・了海諭・山本恵弥里（2006）大相撲における女人禁制の研究（VI）―平成18年（2006）九月東京場所の観客意識調査―，東海大学紀要体育学部第36号，pp. 103～109